

都市再生整備計画 事後評価シート

今駅北地区

平成23年2月

愛知県蟹江町

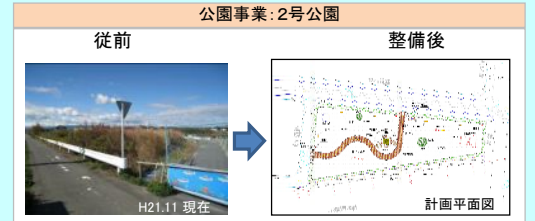
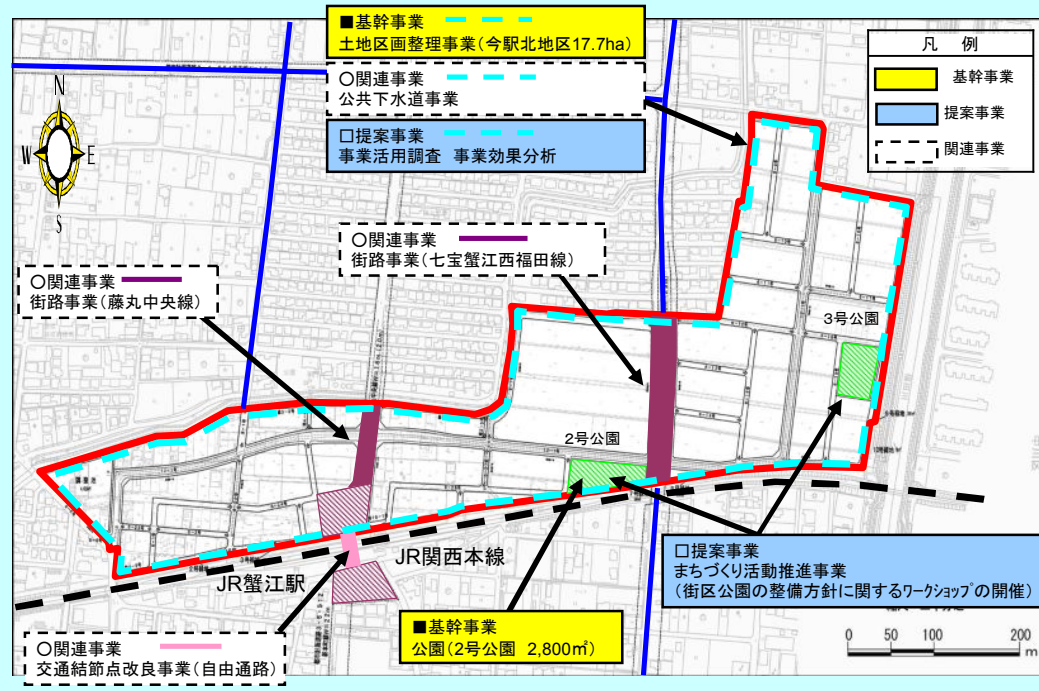
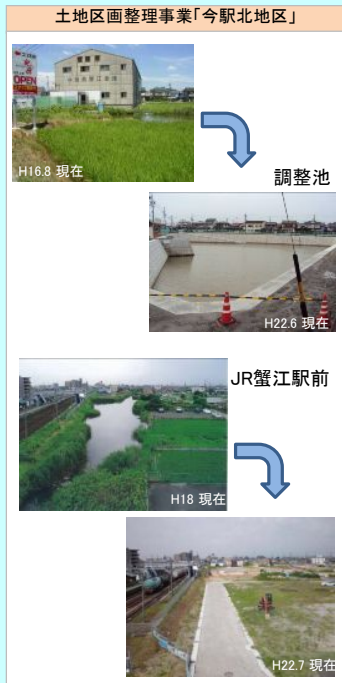
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	愛知県		市町村名	蟹江町		地区名	今駅北地区			面積	17.7 ha			
交付期間	平成18年度～平成22年度		事後評価実施時期	平成22年度		交付対象事業費	503百万円		国費率	0.4				
1)事業の実施状況	事業名													
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	公園(街区公園(2号公園))、土地区画整理事業(今駅北地区)											
		提案事業	まちづくり活動推進事業(街区公園の整備方針に関するワークショップの開催)											
	当初計画から削除した事業	基幹事業	公園(街区公園(3号公園))		土地区画整理事業の進捗の遅れにより整備時期を平成24年以降としたため。				指標3「緑地の確保」に影響するが、緑地整備率の増加を指標の主たる目標としており、公園整備の遅延は直接的に影響しないため、数値目標は据え置く。					
		提案事業	なし											
	新たに追加した事業	基幹事業	なし											
提案事業		事業活用調査(事業効果分析)		事業最終年度において事業効果分析を実施するため。				事業活用調査のため、目標や数値指標に影響はない。						
交付期間の変更	当初	平成18年度～平成22年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		-								
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	指標1	駅乗降客数	人/日	5,700	H15	5,800	H22	モニタリング	評価値	6,124	○	あり	土地区画整理事業や街路事業の実施により、駅周辺のアクセス環境の改善や駅前広場等の整備が進み、快適で利用しやすい駅周辺環境が創出されつつあることから、駅利用者の増加に至ったと考える。	平成23年7月頃
	指標2	居住人口の増加	人	52	H17	222	H22		69	△	あり	●	事業期間内に土地区画整理事業の事業計画が変更され、期待された建築活動が進まなかったことから、目標達成に至らなかった。しかし、地区内人口は増加傾向を示しているため、一定の事業効果はあったと考える。	平成24年6月頃
	指標3	緑地の確保	%	0.0	H17	2.0	H22		1.4	△	あり	●	土地区画整理事業の事業計画変更により、当初すべて完了予定であった緑地の整備が遅れ、目標達成に至らなかった。しかし、地区内の緑地率は増加していることから、一定の事業効果はあったと考える。	平成23年4月
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	その他の数値指標1	避難地エリアのカバー率	%	34.5	H17	/		モニタリング	評価値	71.6	/	/	土地区画整理事業により、地区内に一次避難地として使用できる公園が整備された結果、防災性がより一層高まり、安心・安全な生活環境の形成が進んだと考える。	平成23年4月
	その他の数値指標2	緊急車両進入困難区域の解消	%	27.7	H17	/			97.3	/	/	土地区画整理事業により地区内の基盤整備が進み、幅員6m以上の道路率が上昇した結果、安心・安全で快適に暮らせる生活環境の形成が進んだと考える。	平成23年4月	
その他の数値指標3	生活環境の向上	5段階評価	3.0	H17	/			3.8	/	/	土地区画整理事業や公園事業等が進んだ結果、地区内の生活環境が向上し、地域住民の満足度が向上したと考える。	平成23年8月		
4)定性的な効果発現状況	<p>【事業の波及効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 土地区画整理事業の推進により、農地から宅地への土地利用転換が進み、さらには街路等が整備されることで、駅前及び地区内のまちの骨格イメージが形成されつつあり、町の「北の玄関口」としての土地利用計画が現実のものとして進捗し始めている。 <p>【住民意識の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 公園整備のためのワークショップを開催したことにより、地域住民が本地区のまちづくりに少しでも関わるきっかけとなり、これにより、本地区のまちづくりに関心をもってもらうことができた。 公園整備のためのワークショップを開催したことにより、地域住民が本地区のまちづくりに少しでも関わるきっかけとなり、これにより、本地区のまちづくりに関心をもってもらうことができた。 したがって、今後新たな土地利用の展開が進み、本地区への新規居住者が増加することが見込まれているが、まちづくりに関わりながら進めていく、新旧居住者のコミュニティ形成にむけた場づくりができたと考えられる。 													
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況			今後の対応方針等							
	モニタリング	本事業に関連する部局間で、連絡調整会議を定期的開催し、事業進捗の確認、事業内容の調整等を行い、効率的な事業推進を図った。			都市再生整備計画に記載し、実施できた			●						
	住民参加プロセス	街区公園の整備方針策定に関するワークショップの開催			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した			●						
持続的なまちづくり体制の構築	住民参画による公園の維持管理組織づくりについて検討中である。			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した			●							

様式2-2 地区の概要

今駅北地区(愛知県蟹江町) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値	
大目標:新しい核「発展核」としてのまちづくり ○駅前広場等を整備することにより、町の「北の玄関口」としてふさわしい、まちづくりを目指す。 ○土地区画整理事業の整備により、快適な生活環境を確保し、定住人口の増加を図る。 ○防災上の避難地・都市景観の向上等を目的に公園・緑地を整備し、潤いのあるまちづくりを目指す。	駅乗降客数	単位:人/日	5,700 H15	5,800 H22	6,124 H22
	居住人口の増加	単位:人	52 H17	222 H22	69 H22
	緑地の確保	単位:%	0.0 H17	2.0 H22	1.4 H22
	避難地エリアのカバー率	単位:%	34.5 H17		71.6 H22
	緊急車両進入困難区域の解消	単位:%	27.7 H17		97.3 H22
	生活環境の向上	単位:5段階評価	3.0 H17		3.8 H22



まちの課題の変化

- ・土地区画整理事業の推進により、地区内の道路や公園、下水道の整備が一定量進んだことにより、快適な生活環境が形成されつつある。
- ・災害時に一次避難地として使用できる公園が整備され、地区内の防災性向上につながった。また、公園ワークショップの実施により、住民が防災について考えるきっかけづくりができ、さらに、まちづくりへの関心が高まった。
- ・都市計画道路をはじめとして、地区内に歩道付きの道路が整備されるとともに、水路沿いに散策路となる緑道が整備されたことにより、歩行者の安全性が確保され、また潤いのある空間が創出された。
- ・しかし、3号公園及び一部の緑地については計画期間内の整備が実施できず、地区全体としての防災性の向上や都市景観の向上が途上段階となっている。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

- 町の北の玄関口としての土地利用の推進(JR蟹江駅自由通路の事業実施に向けた検討)
- ・地区の目標である「新しい核『発展核』としてのまちづくり」を推進する。
- 住民の防災意識の向上(住民の防災意識向上のための啓発活動、防災訓練等の住民参加)
- ・地震災害等に強い、安心して暮らせるまちづくりの推進を図る。
- 住民のまちづくりへの参加意欲の向上(公園維持管理の組織づくり支援)
- ・公園ワークショップの参加者など、まちづくりに関わった人々の経験と意欲を持続させるための支援を図る。
- 安心して歩いて暮らせる、快適な交通環境の確保(防犯灯、街路灯の整備、交通安全施設の整備、サイン計画)
- ・犯罪や事故等が発生しないよう、安心して歩けるまちづくりの推進を図る。
- 快適な生活環境の確保(土地区画整理事業(継続))
- ・残された基盤整備の推進により、地区全域での快適な生活環境を確保し、居住人口の増加を図る。
- 防災性の向上と潤いのあるまちの形成(公園整備事業、緑地整備事業)
- ・公園整備等の推進により、地区全域での防災性を向上させるとともに、潤いのあるまちの形成を図る。